

爲	璘
日 四、六八〇 燭風改金 五五〇〇 賣米 一九八一〇 英 七三、一五〇	サントス四歐 十キロ 一七、三〇〇 リオ七級 十キロ 一四、五〇〇

議會改革に巨腕示せ

曠職の議を受け
議員の審議權を
喪失したことは
近來に無い、現行議會
の以つては、最早議會
の參與し得ないことは明か
にされたと同時に、政黨
も再編成を迫ら
れてゐる

五、中外商業新報

和內閣當局の政策は二億金万圓に上る追加費に充てられたた
石炭、水炭等の増産政策に盡
きるが、これとても時勢急

廿七日貴族院で舉行

(東京廿七日同盟) 第七十五通常議會の閉院式は廿七日貴族院に於いて舉行された、この日天皇陛下には親臨あらせられず、米内首相以下各閣僚、松平、佐々木、小山、米子貴衆兩院正副議長以下兩院議員禮装に威儀を正して登院、午前十時十五分振鈴を合圖に式場に整列、同十一時、米内首相が諸員最敬禮裡に傳渥なる勅語を奉讀し、次いで松平貴族院議長、勅語書を拜受し、同十五分滞りなく式を終了

閣內之戰時會議新設？

(倫敦廿六日同盟)復活祭休暇を了へた英露政界には、内閣改造説が俄然勢を加へ、各新聞も一齊に内閣改造問題を探り上げてゐるが、廿六日のデイリメール紙は、左の如く觀測を下してゐる

チェンバレン首相の意圖する内閣改組計畫は、チェンバレン首相、ハリヤックス外相、サイモン蔵相、チャタール閣議長、アムステルダムで、チェンバレン首相の意圖する一切の政策を決定すべく閣内に臨時會議を組織することとなるのである。これが實現すれば、チャタール閣議長は「新首相」となり、並に軍需閣の閣相を代表閣相には、チャタール閣議長が任命され、ドブソン閣相が任命され、キングスランド閣相が任命される。

Italia e Hungria dispostas a assegurar a paz no Danubio e nos Balcanis.

英のスカンヂナビヤ中立侵犯
獨は默視するこそでさね

獨逸政府發表

伯林廿七日開盟」獨逸政府
諸國の中立が屢々侵犯されて
是等中立國の武装なき

望みなき米次官の成果發表

「福音二十日同盟」歐洲和平論の底を穿つた、ウエルズ特使は一日中にニュ
ヨークに歸着することとなつたが、二十六日の「福音」タイムズ紙は、外交消息欄から
の情報として、ルーズベルト大統領はウエルズ特使のワシントン歸着を得て聲明
發表する事になつたと報じてゐる。大統領は右聲明に於てウエルズ特使と歐洲諸國
諸との間に結ばれた會議の経緯、英米外交對策の實行に得た結果を發表し、歐洲諸
國の歐洲行と關聯し、米歐政府が近く和平條約に簽出さざらうとの噂を一掃せ
よとしてゐる點は、興味ある。

駐佛ソ聯大使召還さる

佛政の府に諱忌を觸る

(巴里)二十六日開議 スウェーデン駐佛大使の召還を以て、フランス政府はこの駐在員を「モスクワ同盟」から追放するよう、駐英政府に對し要請したと譯はれる。

フランス政府の要求に依りて、斯く決した。既に正式に發表した。

伊太利も参戦の覺悟要す

フアシスト前書記長紀念祭で演説

獨向鐵鑛輸出遮斷

スガゲラク海峡を封鎖

ハコベンヘーゲン廿六日開
報によれば英蘭艦隊は
斯處にカヲト海峡へ進
つゝあり

スガゲラク・海峡を封鎖すべ
し、
後報によれば

ポンド愈よ落調一途

フランクもこれに追随

三十七日附書に、青島の
ロスは三割五十四仙丁
り、四仙二分一方の
五片濃源に昭和七年十二月の
一志二片十六分の十五以來の
新高値となつた、右クロスの
濃源に就いて我が當局として
は充分評價の外なしとして
ゐるが、國內市場においては
價は又々……

見違ふは影交差の夢醒を
感じつて、全く出題す一方に
弗建も輸出大衆の引合なく
國內閑散である

「研」廿六日附書 英國の
普管理強化は愈々「甘」より
實施されたが、この結果同日
の「研」外は「甘」の時……感

末

北歐 國三 防守同盟に邁進

ワタホルム廿六日同盟
ーデン、ノールウェー
ンド北歐三國の防守

新中央政府

結の初志貫徹に邁進する決意
を示すものとして注目

● 聯に承認？

委員と伊藤及びバルカン地方の問題を協議し、伊藤伯林に於ける駐在の中央政局顧問に立つて用ゐることにした（総説はモロトフ）

アジアに於る

英植民地の危機来る

府は常にイタリヤに對し、獨斷外交を行つてゐる。政府に對しては戰艦部隊があつたが、時に陸軍の増強最高點であつた。

「是は英國海峽に於ける、英國の外交政策の巧みに利用されてゐるが如く、アラビヤ人の心理にして常にラジカルな行方をしてゐるが、一度自國に即ちイランから危機が起きて來れば、英國の平和を保つて置かるが如くに仕舞つて置かるが、然し其状態は長くつかない。其は英國のベルシヤ海に至る石炭基地の重要性を豊富なる運搬路があるから此地方を通關せられ、英國への輸出品は自由港として直接に増します。」

ソ聯と直接に増します。

ガスターンと現して印度の消費地である。

海に至る石炭基地の重要性を豊富なる運搬路があるから此地方を通關せられ、英國への輸出品は自由港として直接に増します。」

によつては英佛に留
獨ソ兩側につくかは
ベルシャは英國政府の干渉壓
迫によりウリサイド内閣が辭
がアフガニスタンに迄
際は英國の寶庫印度は一

世界大戰時の傑を、見る
るものである。是れ
南蘭に於ては、最優
と、經濟政策はない
として「軍備」を近
用して「軍備」を
自動車、直轄、其他
英佛のにより改修せ

組、新見たが、南蘭の興は、
組織より、南蘭を、信任して、
、殊に最近、英、南蘭、
ラを、進出した、パレスタ
に、英、南蘭、土、兵、の多
に、置、兵、の、益、々、
シ、兵、民、は、英、に、反、意、を、持、
に、容、つ、た、。、南、蘭、の、爲、め、に、

三、の、の、ビ、ン、民、族、
は、く、の、の、の、の、の、の、
、現在、

は、よ、う、つ、る、も、英、國、
に、於、る、台、南、地、は、今、
洲、戦、に、よ、り、是、れ、
て、居、る、が、是、等、機、
失、ふ、は、最、後、や、時、の、
と、と、見、る、も、の、言、で、

米英便へ飛行機百輦出

兩國に就し若干の最新式戰艦の輸出許可を與へることに決定した、この結果
 局の注文により建造中の軍用機六百機を佛南噸に供給することとなつた



「御前は何でらうぞ？」
「足の向くまゝ、いゝははは、
雲間な境涯でござい。」
雲間は膝から立てこめる湯
氣の中で、明るく笑つた。
「道に任せてござい、置れた所
をまじりてゐる。伏す。黒衣の
御衣をまじりてゐる。文字ど
りの行雲流水の身です。」
「わたしも、その境涯に落付
いてみたい。」
大三郎は、眼はす心から湧
らした。
二人は、そのまゝ、静かに
ゐて、人氣のない湯小屋の
チロロ／＼と泉音が湧きこけ
れる音に耳を澄すのである。
この時、カサと音がして
戸を開けた者がゐる。
「もう／＼とちのぼる湯氣
で、こちらからなすが、それが
だかわからなかつたが、
どうしたのか、いまはいつ
て来た男、いなりこそを飛
び出した。」
それは、橋本平馬だつたの
だ。平馬は宿へ歸れるや否や
や正體もな顔で来る一學
びを出た。
ふと、平馬はそこへ氣が付
いた。
「縁のりない湯小屋の湯氣
を突かけ、屋根に大きな
石が激つてゐる。あゝあゝ
浴槽へ出て来たか。浴槽は
時どき腐敗だから、浴客は
自分ひとりでとどろきさう
やない。もう／＼と白い湯氣
をあげてゐる。閉關ひの浴槽
には、人の氣が二つ見えて
た。」
そこで、意外な人間の姿
を見かけたのだ。
平馬は、湯小屋を飛び出す
と宿の奥庭へ歸つて見た。
「縁のりない、起つてく」
よく聴くといふ一學をばじ
の、赤城、大御、錦七の四人
を、海濱つと搭すやうに
不意に、壁に破られた四人
は、はなはだ驚愕が隠い。
中では、遠慮のない仲だか
ら一學が赤い眼を流さうに
あけ、時々に來くに平馬の
低いし態度を、にが／＼し
く眺めながら
「なんだ。何ぞ騒ぐのだ。今
時分だ。」

あべれ大名 （時世）

久我 莊多郎 富子 彌生

（有馬の湯里）三ノ三

三郎に行き合ふ人は、まつたくなかつたものだ。知らず知らずに、三郎は我身（わがみ）の恥を解いてゐる。

「どちらまでのお話ですか？」

「や、有馬へは、長節留（ながせどめ）をなさるおつもりですか？」

「どうして？」

「と、人なかりさは、大三郎にも變りがない。お言葉に、あ、か、い情を感じるのである。」

「瘦浪人の身上、長節留は望めぬのです。ただうかり一夜の自然（しぜん）の酬（むら）をうけるばかりです。が、話はいいものですな。」

「左様。漫（まん）じい、毎日もうやがて、有馬に歸りです。もうやがて、三郎夜遊びを聞くことが出来ませ。」

「おい、嘘。すぐ支度しろ。支度へ。大三郎が——支度へ。大三郎がある。」

三郎が、湯裏の中で寝たやうに、それは、標清馬に相違なかつた。

「が、馬がこの夜、ひとりで湯小屋を出るといふのは、ちよと可笑しい話であるが、——平馬、左腕に受けた傷がいたで、眠れなかつたのだ。」

佐分利一撃や、助腕のため、在りてゐる赤衣行、大節留、それに波乗り、騎七たちは、眠醉に酔つて氣樂な姿を辿つてゐるのだが、自分ではさして感じないものの胸の傷が、酒を飲んだるか、シクシク痛んだらならぬ。と、他人の胸傷が耳にいて、腰が立つし、いらくするし。

（湯にでも浸つたら——）

